

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 2月 21日

[Redacted content]

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	清華大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: 不動産開発 )		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

特に理工系に強みを持つ中国のトップ校であり、北京に所在する

留学した動機

修士研究の対象として中国を選択し、現地での調査の必要性を感じたため  
中国にルーツを持ち、現地での生活を経験したかったため

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	修士1	年生の	W	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	1月	
	修士2	年時に出発			

④留学後の授業履修:	2018年	修士2	年生の	S1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2018年	修士2	年生の	3月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			23	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			2	単位	
	留学後の取得(予定)単位			8	単位	
⑦入学・卒業／修了(予定)時期:	2016年	4月入学	2019年	3	月卒業／修了	
⑧本学入学から卒業／修了までの期間:	3年		0ヶ月間			
⑨留学時期を決めた理由:						
修士研究の準備、奨学金の申請、就職活動等を勘案した結果、修士2年の夏学期に相当する期間を休学し冬学期に相当する期間に留学を行い1月末で帰国するスケジュールとした						
<b>留学の準備</b>						
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)						
研究を目的とした留学の場合は、留学を決める前に現地の大学での指導教員を探しておく必要がある。						
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)						
中国国籍のためビザの申請を必要としなかった。						
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)						
持病のため必要となる睡眠薬と湿布については主治医に事情を説明し3ヶ月分程度処方してもらった。慢性疾患については現地にて海外留学保険の適用外となるため注意が必要						
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)						
付帯海学に加入した						
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)						
留学を決断した時点で修士課程で3年間在学するスケジュールであることがわかったため、金銭的負担の軽減を目的として1学期分の休学の手続きを行った。今後、同様に1学期分の休学の手続きを行う予定。留学に際しては、留学許可願・修学計画書等を提出した。今後、留学先大学からの成績表が届き次第、単位認定の手続きを行う予定。						
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)						
留学前の時点でHSK6級であったためそれ以上の語学関係の準備を必要としなかった。						

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国に留学に行く場合はVPNについての情報収集・契約手続きが必要。  
日本からは、文房具(ボールペン、テープ、カレンダー、タイマー等)、机の周りの掃除用品(ホコリ取り等)等の事務用品を持って行くとい(気になるのであれば)。中国であれば、日本に比べて値段は張るものの、前述の事務用品、衣服、食品等は日本ブランドのものが手に入るため過度の心配は不要(無印良品、ユニクロ、イトーヨーカドー等)。東京大学グッズを持って行くとい(缶入りのゴルフ等、できれば日持ちがするもの)

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
都市農村管理計画と相關制度	1	●			
不動産開発と計画策定	1	●			
都市工地区域利用計画とコンパクトロール	1(落第)				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は基本的に講義を聞くスタイルで一部にグループワーク、個人課題の発表があった。授業評価はいずれも5000字程度のレポート  
研究は図書館での資料閲覧、ジャーナルでの論文検索とレビュー、統計情報の検索、聞き取り調査など

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり3科目 週あたりの学習・研究時間は約25時間

④学習・研究面でのアドバイス

東京大学側の指導教員に適宜状況を報告しレビューを得るべき

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

中国語での5000字のレポートを書くのは日本語での1万字のレポートに相当する労力が必要

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学内の寮(二人部屋)、渡航前に留学先大学のサイトで予約、すぐに部屋がなくなるため早めの予約が必要

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

生活は基本的に学内で完結する。学外に出るのは多くて週に2回程度。スマートフォンを利用したモバイル決済が可能であればインターネットを利用した通販、フードデリバリー、シェア自転車、タクシーの配車、鉄道切符の購入等が可能となるため日常生活で不便を感じることはほぼない。資金は現地口座に親からの送金を受けた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

北京の治安は東京と同程度であるため特別の心配を必要としない。医療機関を受診しなかったため医療機関の事情は不明だが北京であれば日本語通訳が常駐している医療機関も多い。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

4万5000円

寮費月額2万円、飲食費月額1万円、服・日用品等月額5000円、遊興・書籍等月額5000円、通信費2000円、雑費

・留学に要した費用総額とその内訳

75万円

現地生活費等25万円、渡航費5万円、保険5万円、留学中の東京の家賃37.5万円、留学に必要な物品の準備2.5万円等

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

官民協働海外留学支援制度  
留学準備金15万円、奨学金月額12万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

短期の旅行を行なった(北京市内、済南、上海、西安、天津等)

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学パートナーがいたが、必要となる場面はあまりなかった。中国語に支障がなければ寮の管理人に問い合わせるのが簡便。学習面のサポートはほとんど得られず、これは期待外れであった。教員個人の問題か大学としての問題かは不明。全学交換の場合と学科間交換の場合とで派遣先の学科から得られるサポートに差があった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は利用可能だが、貸出冊数が5冊まで制限される。スポーツ施設は屋内・屋外ともに多数存在するが利用しなかったため詳細不明。学内の食堂はかなり充実している。スーパー、郵便局、クリーニング店、印刷店、自転車屋、パソコン修理等、日常生活に必要なと思われる施設は一通り揃っている。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学中・終了直後は就職活動のスケジュール等の情報が得られず不安感が強い  
留学経験が有利な実績となる業界・企業を対象として就職活動を行うようになった

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- |  |                          |
|--|--------------------------|
|  | 1. 研究職                   |
|  | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) |
|  | 3. 公的機関(機関名: )           |
|  | 4. 非営利団体(団体名又は分野: )      |
|  | 5. 民間企業(企業名又は業界: )       |
|  | 6. 起業(分野: )              |
|  | 7. その他( )                |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学中には思い通りにならず仕方がないと思わざるを得ないことが多々あり、いい意味で諦め・切り替えがつくようになった。留学によりなんらかの成長をした感覚はあるが、それがどのようなものであるかは留学しなかった場合の人生との比較ができないため評価できない。

②留学後の予定

就職活動の後、修士研究に本腰を入れて2019年3月での卒業を目指す

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学前に留学の目標、現地でどのようなサポートが得られるか、留学中に目標の達成度をどのように評価するかを考えるべき

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

